〈学校活動部門〉

長崎県宇久島で行われている「五島神楽」について

長崎県立宇久高等学校
３年　内野　紗希
木戸　遥香
立道　愛海

1.　はじめに

本論は、私たちの地元「宇久島」の複数の課題に目を向け、私たち高校生がそれらの改善のためにできることを模索したものである。

宇久島は、長崎県五島列島の最北端に位置する島である（図１）。畜産業や海産業が盛んで、最盛期には１５，０００人を超える島民が暮らしていた。しかし今では島の人口は１，９００人を切り、その大半が６５歳以上という深刻な少子高齢化に直面している。この人口減少と少子高齢化によって、島で行われていた伝統的な行事や祭の存続が厳しい状況になってきており、祭を小規模化したり、別の祭と吸収合併されて祭の数が減少したりしている現状がある。

図１．宇久島の位置

そこで私たちは、３学年での総合的な探究の時間を利用して、以下の２つを目的とした活動を行うことにした。

①　宇久島独自の伝統・文化に関する記録を残すこと。

②　島外に向けて宇久島独自の伝統・文化の情報を、インターネットを利用して発信し、宇久島の PR を行うこと。

この研究をきっかけに、島外の方々が宇久島に興味を持ってくだされば幸いである。

2.　研究方法

長崎県宇久島の五島神楽は、平地区の神島神社で行われているものと、神浦地区の宇久島神社で行われているものの２種類が存在する。

事前活動として、２つの神楽について私たちが持っていた知識とインターネット上の情報を照らし合わせて、祭の概要と疑問点をまとめた。以下は事前活動のまとめである。

①　平地区の神島神社の神楽について

五島神楽八系統の一つと言われていた（図２）。重要無形民俗文化財の指定を受け、保存継承活動に取り組んでいる。

②　神浦地区の宇久島神社の神楽について

神楽は、いちかぐら、長刀、折敷、獅子舞の神楽の４つが順番で奉納されている。神楽を舞っている時に掛け声を行う。

③　神楽に関する疑問点

・何のために神楽は始まったのか。
・神楽を舞っているときの動作にどんな意味があるのか。
・神楽を舞っている時の掛け声はどんなことを言っていて、どのような意味があるのか。
・平と神浦の神楽はどこが違うのか。
・昔と今で神楽にどのような変化があるか。

図２．神島神社での神楽の様子

上記の疑問を解決するべく、５月１９日木曜日、神浦の神楽について、宇久島神社神主の月川徹氏に取材した（図３）。また、同日神島神社で神楽を担当されている平田次博氏に平の神楽について取材した（図４）。

図３．月川徹氏への取材の様子

図４．平田次博氏への取材の様子

3.　研究結果

①　平地区の神島神社の神楽について

宇久島の神楽は、農作物の大量豊作の祈願をするために行うものである。起源は、室町時代の後期に神楽の形ができ、江戸時代の中期に神楽が完成したと言われている。そのため、神楽は約４００年以上の歴史がある。また、神楽を奉納する家系は決まっている。

宇久神楽のひとつである神島神社の神楽は、福江藩から伝承されたものである。現在、奉納している神楽は、「平舞」（図５）と「荒平舞」、「榊舞」であり、以前は他にもいくつかの種類の舞が奉納されていたが、今では途絶えてしまった。現在でも奉納されている３つの舞は、確実に残していきたいものだそうである。また、以前は「あいだち」といった、２人で舞を舞うような形だったが、現在は、一人で唱えながら舞うような形をとっている。神楽を舞うときに使う道具は、扇子、天狗のお面（図６）、扇子、鈴、おぼん（図７）、鼓（図８）を使う。舞の中で、田を耕し、種をまき、収穫する動作は全ておぼんを使って表現する。このように、神楽の舞のすべての動作に意味が込められている。

神島神社の神楽は、４月の最終日曜日の神島神社の記念祭と７月の第３土・日曜日の祇園祭、１１月２３日の新嘗祭で奉納されている。

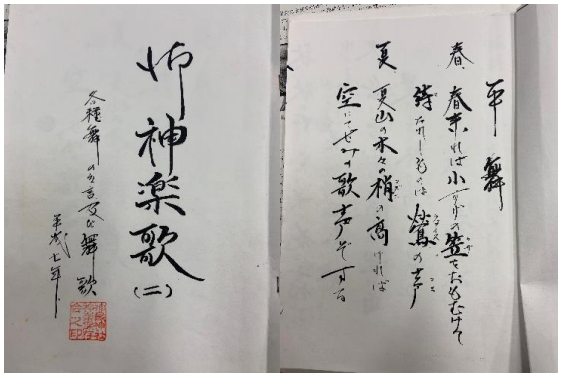

図５．平舞の歌詞

図６．天狗の面

図７．扇子、鈴、おぼん

図８．鼓

② 神浦地区の宇久島神社の神楽について

神浦地区の宇久島神社の神楽は、富江藩から伝承されたものである（図９）。宇久島神社の神楽は、神主と社方と呼ばれる人々が鳴り物と舞を務める。この地区でいつから神楽が行われるようになったかは、明確になっていない。

平成２８年に国の重要無形民俗文化財に登録された五島神楽７つの中の一つで、当時は後継者不足で神楽が途絶えてから４０年経っていたが、保存会が発足し再び行われるようになった。

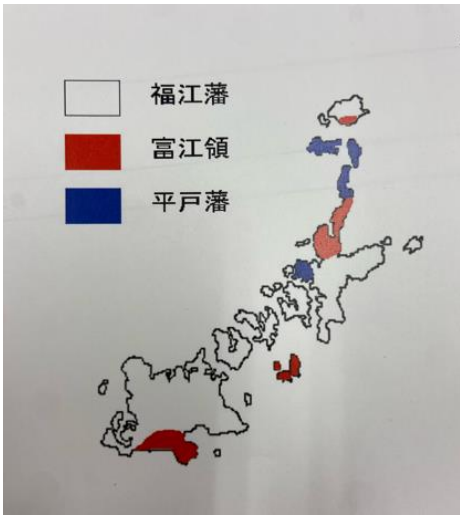

図９．冨江領分布図

神浦の神楽は、最後に獅子頭と天狗の面を使い、獅子舞をする所が平の神楽にはない特徴である。天狗の顔は、場所によって少しずつ顔が違う。昔は、二人で掛け合いを行う「問答」もしていたが、今は神楽担当者の若年化が進み、問答まで覚えるのは難しいため行わないようになっており、簡単な一つ舞だけを舞うことになっている。

神浦の神楽で使われる道具は、鈴、扇子、お盆、刀、獅子頭、天狗の被り物、獅子を脅すための笹で作られた祭具がある。また、いちかぐらは女性が、長刀、折敷、獅子舞は男性が行っている。

現在、宇久島神社の神楽は、春の記念祭（６月下旬頃）に奉納されているが、昔は秋祭の際にも神楽が奉納されていた。

③　神楽に関する疑問点について

平と神浦の神楽の違いを以下にまとめる。

	平	神浦
発祥となる藩	福江藩	冨江藩
道具	※ 鈴、扇子、おぼんは共通	
道具	天狗のお面（鼻が高いもの、低いもの）	獅子頭、天狗の被り物、獅子を脅す鳴り物
舞	・「耕す→種をまく→収穫」などの動作 ・掛け合い、女の人の一神楽竿舞、五島神楽　巫女の舞 ・ぼんをひっくり返し落とさないようにする動き	・いちかぐら…２か所の場所を何回も回って舞う ・長刀…途中から斬るように舞っている所 ・折敷…最後にお盆を持ったまま後転をする所 ・獅子舞…最後に、脅している人が獅子から噛まれる所

4. 考察

神楽が途絶えないように、神楽について詳しく知っている人が積極的に若い世代に魅力を発信し、神楽について興味を持ってもらえるような努力がされていた。また、問答をなくしたり、奉納する日を減らしたりと、神楽を継続するために工夫をしている点が多かった。今後この文化を絶やさないようにするためには、舞い方を知っている人が、若い世代に舞い方を伝えていくことも大切だと考える。

神浦の神楽では、獅子頭を使った獅子舞があるが、平ではないのはなぜなのか疑問に感じた。神楽の性質にも違いがあるのではないかと考えられる。

5. まとめと今後の研究

宇久島の神楽は、農作物の大量豊作を祈願するために奉納されている。後継者不足により途絶えてしまうこともあったが、地域の方の「復活させたい」という思いから、保存会を立ち上げ、実際に２つの神楽を再興させることができた。

神島神社と宇久島神社の神楽では、道具や舞う人の人数や舞の種類など相違点がいくつかあることが分かった。また、２つの神社の神楽とも、後継者不足に悩まされていることも分かった。このような問題点から、他の地域の神楽では、どのような問題点があるのか、後継者不足の問題から解決した例はないかなどを調べ、今後に活かしたい。

今回の調査で知ったことについて、インターネットを使った PR に活かし、宇久島の活性化に貢献したい。

6. 謝辞

本研究は月川徹氏、平田次博氏のご協力をうけて行いました。ここに記して感謝いたします。